

## 【レポート】

2000年代初頭に大きな問題となった地方の医師不足に端を発し、何とか地域医療を守ろうと地域を巻き込んで活動してきた取り組みの概要を報告する。

# 雲南地域医療を考える会の取り組み

島根県本部／雲南市立病院職員労働組合

## 1. 雲南地域医療を考える会の発足

雲南市立病院職員労働組合からは、地域医療を守る活動として主体的に取り組んでいる「雲南地域医療を考える会」の活動について報告する。

雲南地域医療を考える会は、健康で文化的な生活を営むための基本である医療について、環境整備を図ることや医療提供体制の充実に向けた必要な施策などを、行政、医療機関、住民と一緒に考えて行くことを目的に2006年3月28日に発足した。以降、大変多くの方々にご協力をいただきながら、医療提供体制の充実を求める署名活動や、研修会、シンポジウムなどの活動に取り組んできた。

本会発足のきっかけとなったのは、当時の医療制度改革により医療界にも勝ち組と負け組が出来る仕組みが作られ、これにより僻地の医療が壊滅的な状況に陥ったことである。中でも2004年から始まった「新医師臨床研修制度必修化」の影響により、研修医が都市部の医療機関に集中し、その結果として地域の医師が急激に不足してきた。また、深刻な医師不足に至った背景には、この間自民政権が進めてきた医学部の定数削減も大きな要因である。これらの影響は雲南圏域においてももろに受け、雲南地域の医療機関の勤務医が激減した。中でも雲南圏域の中核病院である雲南市立病院（当時は公立雲南総合病院）は、2002年当時34人であった常勤医が2010年には17人まで減少し、存続の危機にまで陥っていた。

このことにより、地域医療を担って来た自治体立病院が物理的にこれまでと同様の役割を果たすことが出来なくなり、その結果として多くの住民が不安や不満を抱くこととなった。そこで、なぜこのような状況に陥っているのか、今後何をすべきかなどを住民と共に考えて行く取り組みとして、地域医療に関するシンポジウムを開催することを活動の主体とすることとした。

## 2. 活動の主体であるシンポジウムの開催

第1回目のシンポジウムは「中山間の医師不足と医療の現状と課題」をテーマに本会の関会長が基調講演をし、その後パネルディスカッションを行った。パネリストには、雲南保健所長、雲南病院長、自治労本部衛生医療評議会副議長、飯南病院看護師、奥出雲病院看護師、雲南病院看護師で行った。その後、年1回のペースで、「医療・保健・福祉の連携」「雲南圏域における医療機関の連携体制」「これからの地域医療ネットワーク」「地域医療を担う人材育成」「それぞれの地域ケア」などをテーマにこれまでに16回開催してきた（※詳細は別紙シンポジウムのあゆみ参照）。当初は運営内容、運営方法等に苦慮し継続も危ぶまれたが、雲南圏域の自治労加盟単組（雲南市職、奥出雲町職、飯南町職、雲南市立病院職、町立奥出雲病院職、飯南町立飯南病院職）の努力と、それを支えていただいた自治労島根県本部や連合島根の支援により、コロナ禍による3年間の休止はあったものの、20年近く継続して開催してきた。講演は、主として、県内各地の病院、大学の先生方に依頼し、パネルディスカッションの司会

は地元の保健所長、パネリストは雲南圏域の病院、医師会、研修医、医学生、看護学生、行政、住民団体等の関係機関から参加いただいている。研修医、看護師の中には、すでに、雲南圏域の病院で働く人達も出てきている。シンポジウムには中学生や高校生も参加しており、「地域医療の大変な実情がよく分かった」「将来、この地域の医療に従事したいという思いがより強くなった」「将来、医療に従事する職につき地域に貢献したい」などの感想も寄せられるようになった。第10回の記念大会には、ジャーナリストである池上彰さんの基調講演「学び続けること」と、パネルディスカッション「少子高齢化社会における医療と教育のありかた」をテーマに約500人が参加した。また、新型コロナの影響により2020年から3年間開催を休止していたが、2023年5月に新型コロナが感染症法上の位置づけが5類となったことを受け、4年ぶりに第16回目のシンポジウムを「少子高齢化と人口減少社会における持続可能な地域医療提供体制の確保に向けて」をテーマに開催した。基調講演には城西大学経営学部教授 伊関友伸 先生をお招きし、「アフターコロナの時代の自治体病院」という演題でご講演いただいた。パネリストには行政代表として島根県健康福祉部長・雲南市長、雲南圏域3つの自治体病院から、雲南市立病院 院長・町立奥出雲病院 院長、飯南町立飯南病院 院長にご登壇いただき、今後の雲南圏域の医療の在り方などについて活発な意見交換が行われた。今回は4年ぶりの開催となったため、不安な面もあったが、約200人の参加の下、会場からも様々な意見が出され大変成功裡に開催することが出来た。

### 3. 継続して開催できている要因

次に、本シンポジウムが継続して実施できている要因について触れておく。第1の要因として考えているのは、確かに実行委員会メンバーが中心となり準備を進めているが、それだけでは不十分であり、関係の労働組合員が地域医療の重要性を考え、準備段階ではシンポジウムの原案の作成、講師依頼、ビラづくり、ポスター作り、当日は、受付、会場づくり、講師対応、マイク係、ブース係、写真係、司会進行、懇親会の進行等まで、役割分担してきたことにある。また、自治体島根県本部が地域医療対策を「政策重点課題」として位置づけ、雲南地区、隠岐地区、邑智地区を重点地区として、精神的にも、財政的にも援助してもらっていることも大きな要因がある。

第2の要因としては、これが第1の要因かもしれないが、地域医療が崩壊寸前にある危機感が、県民全体にあることである。県をはじめ関係機関の各種の施策と、本会が連携を保ちながら、シンポジウムを運営し実施してきた。具体的には、島根県は医師確保対策室（2006年）、島根大学に寄付講座である地域医療支援学講座（2010年）、しまね地域医療センター（2011年）を設置した。それと共にソフト面では、赤ひげバンク、地域勤務医師確保対策のための僻地代診医制度（2000年～）、医学生地域医療奨学金（2006年～）、看護学生修学資金等を行っている。各病院も主として看護師に奨学金制度を設けている。本会では、これらの関係者と連携を深めるとともに、シンポジウムの講師として参加してもらっている。

また、医療を守る住民組織として雲南地域には「がんばれ雲南病院市民の会（2008年）」、「雲南病院を支えよう市民の会（2008年）」、「飯南町の医療を守り支援する会（2010年）」、「奥出雲町地域医療確保推進協会（2010年）」が設置されている。これらの会とは、連携を保ちながら、活動を進めている。また、雲南市立病院では、「地域医療人育成センターH21.4（キャリアサポート・育成センターに名称変更）」を設置し、将来地域医療を担う人材の育成にも力を入れている。

この2つの要因、すなわち、主体的要因としての労働組合員の活動と環境的要因としての地域医療情勢が、雲南のシンポジウムを16回続けられてきた継続的要因であり、これを強化していくことが、今後においても重要であると考えられる。

### 4. 二次医療圏の存続

ここで、これまでも大きな問題として議論して来た二次医療圏域の考え方についても触れておく。二

次医療圏設定の基本的な考え方としては、一体の区域として病院等における入院に係る医療を提供することが相当である単位とされており、その際、地理的条件等の自然的条件や、日常生活の需要の充足状況、交通事情等の社会的条件を考慮して設定するとされている。

また、一方で国が示した2013年度からの第6次医療計画の策定指針においては、人口20万人未満、流入率が20%未満、流出率が20%以上に該当する二次医療圏域においては、圏域の検証を行うことが求められた。

しかしながら、現在の島根県保健医療計画においては、生活圏としての一体性、県民の受領動向、医療機関の設置状況、保健・医療・福祉の一体化、広域行政区域、救急医療体制等を総合的に考慮し、松江・雲南・出雲・大田・浜田・益田・隠岐の7つを二次医療圏域として設定している（雲南圏域は人口約5.1万人、流出率約40%にもかかわらず「二次医療圏」として存在している）。

保健医療計画においては、二次医療圏域ごとに医療機関の機能や役割、病病、病診連携の体制や基準病床数などが示されている。また、医療法により医療連携体制の構築が制度化されたことから、5疾病（がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病、精神疾患）、6事業（救急医療、災害医療、周産期医療、小児救急医療を含む小児医療、へき地医療、新興感染症）及び在宅医療の医療連携体制の構築に向けた取り組みも示され、現在の7つの二次医療圏域の必要性について、しっかりと明記されている。

しかし、仮に国が示した基準のみに基づいて二次医療圏域を設定するような事になれば、島根においては、3つないし4つの圏域に統合することとなり、益々地域医療が衰退してしまい、離島・中山間地の人口減少にも拍車がかかると考える。現在の7医療圏の中でも雲南市、飯南町、奥出雲町の1市2町で構成している雲南医療圏域においては、1,164km<sup>2</sup>という県の17.4%を占めるほどの広範な面積であることや、松江、出雲方面への公共交通機関も不十分であること、圏域内の自治体病院間の連携体制や機能分化も徐々にではあるが進んできていることもあり、存続は必要不可欠である。

また、地域医療構想を策定する単位である「構想区域」は、二次医療圏を原則とするという方向も示された。

今回策定された「第8次島根県保健医療計画」では今後の二次医療圏については触れられなかったが、地域医療の存続を図る上においてはもとより、人口減少対策の上においても7つの二次医療圏域は当然存続すべきと考えている。

## 5. 今後の課題

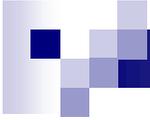
これまでも多少触れたが、雲南医療圏域には大きな課題がある。医師不足については依然厳しい状況が続いており、医師偏在指標では全国330圏域中311番目という最下位に近い順位である。また、一次医療を担う開業医の高齢化や後継者不足も深刻な状況であり、今後の大きな課題である。医師だけではなく看護師不足も厳しい状況にある。特に近年では新型コロナなどの新たな対応もあり、その事で疲れ切った看護師が集団離職するなどの問題もあらゆる地域で起こっている。看護師の離職防止や看護師をめざしたいと思う人材を育て増やして行くためには、看護師の勤務環境の改善を図る対策も急務である。この様に医療人材の確保は大変重要な問題であり、これからもしっかりと取り組んでいく必要がある。

最後に、シンポジウムについては今後も継続して開催し、連合島根、自治労島根県本部を始めとする労働組合や、行政、住民との連携を更に強化しながら「地域医療を継続して守っていく仕組み」を作っていきたいと考えている。

別紙

# シンポジウムのあゆみ

雲南地域医療を考える会



# 雲南地域医療を考える会について

会 長：関 龍太郎(元島根県保健環境科学研究所 所長)

会 員：病院職員、住民、市町議員など

設 立：平成18年3月28日

## 【これまでの主な活動】

- ・シンポジウムの開催(16回開催)
- ・講演会、学習会の開催
- ・署名活動
- ・病院間の意見交換及び交流
- ・病院視察

# 第1回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成18年5月20日(土)13:30

場所 三刀屋文化体育館アスパル

参加者 約200名

テーマ 「中山間地域の医師不足と医療の現状と課題について」

パネルディスカッション

## 【パネリスト】

行政の立場から	大城 等 氏(島根県雲南保健所長)
医師の立場から	大塚 昭雄 氏(公立雲南総合病院 院長)
組合の立場から	梶谷 房生 氏(自治労本部衛生医療評議会副議長)
現場の立場から	松村 和茂 氏(飯南町立飯南病院 看護師)
現場の立場から	内田百合子 氏(町立奥出雲病院 看護師)
現場の立場から	毛利真由美 氏(公立雲南総合病院 看護師)

## 【座長】

関 龍太郎 氏(雲南地域医療を考える会 会長)

# 第1回 シンポジウムの様子



## 第2回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成19年6月2日(土)13:30

場所 木次経済文化会館チェリヴァホール

参加者 約350名

テーマ 「雲南地域の医療の充実に向けて

～医療・保健・福祉の連携と圏域内での機能分担をどう考えるか～」

### 基調講演

演題:「中山間地の医療充実に向けてー浜田市の実践から」

講師:阿部 顕治氏(浜田市国民健康保険弥栄診療所 所長)

### パネルディスカッション

#### 【パネリスト】

病院の立場から 服部 修三氏(公立雲南総合病院 副院長)

開業医の立場から 西村 昌幸氏(雲南医師会 副会長)

保健の立場から 曾田 富代氏(雲南市健康推進課主査統括保健師)

福祉の立場から 井谷 純子氏(雲南広域福祉会統括所長)

行政の立場から 影山 喜文氏(雲南市 副市長)

議会の立場から 佐藤 嘉夫氏(公立雲南総合病院充実強化雲南市議会議員連盟会長)

住民の立場から 景山 純孝氏(大東町自治会連絡協議会 会長)

#### 【コーディネーター】

大城 等氏(島根県雲南保健所 所長)

#### 【助言者】

阿部 顕治氏(基調講演講師)

# 第3回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成20年6月28日(土)14:00

場所 木次経文化会館チェリヴァホール

参加者 約350名

テーマ 「雲南医療圏域における公立雲南総合病院の役割

～地域住民が求める医療とは何か、それを提供する医療機関は何をすべきか～」

基調講演

演題:「島根の医療充実に向けて島根大学医学部の取り組み」

講師:熊倉 俊一 氏(島根大学医学部地域医療教育学講座 教授)

パネルディスカッション

【パネリスト】

病院開設者の立場から 秦 和夫 氏(公立雲南総合病院 副管理者)

病院勤務医の立場から 松井 譲 氏(公立雲南総合病院 副院長)

看護師の立場から 白根 典子 氏(公立雲南総合病院 看護部長)

行政の立場から 永岡 秀之 氏(島根県雲南保健所 所長)

住民の立場から 矢壁 敏宏 氏(がんばれ雲南病院市民の会 事務局長)

【コーディネーター】

関 龍太郎 氏(雲南地域医療を考える会 会長)

【助言者】

熊倉 俊一 氏(基調講演講師)

# 第4回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成21年7月11日(土)13:30

場所 古代鉄歌謡館

参加者 約200名

テーマ 「これからの地域医療ネットワークを目指して」

基調講演

演題:「島根県の実地医療の課題と展望」

講師:中川 正久氏(島根県参与、島根県病院事業管理者)

パネルディスカッション

【パネリスト】

開業医の立場から 西村 昌幸氏(雲南医師会 副会長)

中核病院の立場から 陶山紳一郎氏(平成記念病院 院長)

中核病院の立場から 大谷 順氏(公立雲南総合病院 診療局長)

住民の立場から 久我 卓央氏(雲南病院を支えよう市民の会 会長)

行政の立場から 速水 雄一氏(雲南市長)

【コーディネーター】

永岡 秀之氏(島根県立心と体の相談センター 所長、前雲南保健所長)

【アドバイザー】

中川 正久氏(基調講演講師)

# 第5回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成22年11月14日(日)14:00

場所 木次経済文化会館チェリヴァホール

参加者 約200名

テーマ 「雲南圏域の中核病院のあり方と連携体制の構築に向けて」

基調講演

演題:「雲南圏域における地域医療再生に向けて」

講師:谷口 栄作 氏(島根大学医学部地域医療支援学講座 教授)

パネルディスカッション

【パネリスト】

佐野 啓介 先生 公立雲南総合病院 診療局長

和田 成仁 先生 町立奥出雲病院 副院長

萬代 恵治 先生 飯南町立飯南病院 院長

陶山紳一朗 先生 平成記念病院 院長

【コーディネーター】

長崎みゆき 氏(島根県雲南保健所 所長)

【アドバイザー】

谷口 栄作 氏(基調講演講師)

# 第6回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成23年7月16日(土)13:30

場所 木次経済文化会館チェリヴァホール

参加者 約300名

テーマ 「地域医療を担う人材を地域で育てて行くためには！」

基調講演1

演題:「地域医療再生に向けての雲南市立病院の取り組み」

講師:松井 譲 氏(雲南市病院事業管理者)

基調講演2

演題:「島根県における医師確保対策」

講師:木村 清志 氏(島根県健康福祉部医療統括監)

パネルディスカッション

【パネリスト】

住民の立場 田部 五月 氏(飯南町の医療を守り支援する会会長)

若手医師の立場 奥田 淳三 氏(雲南市立病院後期研修医)

看護師の立場 景山 咲子 氏(町立奥出雲病院総看護師長)

議会の立場 藤原 政文 氏(雲南地域議会議長連絡会会長)

行政の立場 藤井 勤 氏(雲南市副市長)

医学生の立場 安田 幸司 氏(島根大学医学部生)

看護学生の立場 坂本 遥香 氏(県立石見高等看護学校学生)

【コーディネーター】

谷口 栄作 氏(島根大学医学部地域医療支援学講座 教授)

【アドバイザー】

松井 譲 氏(基調講演講師)

# 第7回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成24年7月29日(日)14:00

場所 三刀屋文化体育館アスパル 中ホール

参加者 約200名

テーマ 「看護師にとって魅力ある病院は地域の宝！」

基調講演

演題:「看護の力で地域を支える」

講師:吉川 洋子 氏(島根県立大学看護学部長)

パネルディスカッション

【パネリスト】

教育担当看護師 前島 里子 氏(雲南市立病院看護部次長)

新人看護師 安部 亮介 氏(町立奥出雲病院看護師)

中堅看護師 安部 舞 氏(平成記念病院看護師)

UIターン看護師 栗本 正幸 氏(飯南町立飯南病院看護師)

看護学生 川島 智史 氏(松江総合医療専門学校看護学科2年生)

【コーディネーター】

福澤 陽一郎 氏(島根県雲南保健所 所長)

【アドバイザー】

吉川 洋子 氏(基調講演講師)

# 第8回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成25年6月29日(土)14:00

場所 木次経済文化会館チェリヴァホール 3階会議室

参加者 約180名

テーマ 「地域医療ってなに！～私が考える地域医療の魅力～」

来賓 原 仁史 様(島根県健康福祉部 部長)

基調講演

演題:「若手医師の県内定着に向けて ～オールしまねでの取り組み～」

講師:吉川 敏彦 氏(一般社団法人しまね地域医療支援センター事務局長)

パネルディスカッション

【パネリスト】

森脇 義弘 氏	雲南市立病院診療局次長
樋口 大 氏	飯南町立飯南病院内科医師
春日 聡 氏	松江赤十字病院初期研修医
森山 智博 氏	飯南町訪問看護ステーション理学療法士
小畑 夏美 氏	島根県立石見高等看護学校3年
横田 和男 氏	奥出雲町健康づくり推進室 地域医療支援コーディネータ
中井美佐子 氏	病院ボランティアの会(てごっ人)

【コーディネーター】

関 龍太郎(雲南地域医療を考える会 会長)

【アドバイザー】

吉川 敏彦 氏(基調講演講師)

# 第9回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日 時 平成26年5月24日(土)13:30

場 所 飯南町保健福祉センター

参加者 約210名

テーマ 「それぞれの地域包括ケア～今から実践できること～」

来 賓 原 仁史 様(島根県健康福祉部 部長)

西村 秀樹 様(飯南町副町長)

基調講演

演 題:「尾道市御調町における地域包括ケア」

講 師:沖田 光昭 先生(公立みつぎ総合病院 副院長)

パネルディスカッション

【パネリスト】

大谷 順 先生 雲南市立病院 院長

深澤 郁雄 先生 町立奥出雲病院 院長

安田 勲 先生 飯南町立飯南病院 院長

【コーディネーター】

福澤 陽一郎 先生(島根県雲南保健所 所長)

【アドバイザー】

沖田 光昭 先生(基調講演講師)

# 第10回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日 時 平成26年11月16日(日)13:00

場 所 木次経済文化会館チェリヴァホール

参加者 約500名

来賓挨拶 原 仁史 様(島根県知事代理、島根県健康福祉部 部長)

速水 雄一 様(雲南市長)

記念講演

演 題:「学び続けること」

講 師:池上 彰 氏(ジャーナリスト)

記念対談

テーマ「少子・高齢化社会における医療と教育のあり方」

【対談者】

原 仁史 氏 島根県健康福祉部 部長

小林 祥泰 氏 島根大学 学長

速水 雄一 氏 雲南市長

松井 譲 氏 雲南市立病院 病院事業管理者

池上 彰 氏 ジャーナリスト

【進行役】

関 龍太郎(雲南地域医療を考える会 会長)

【総合司会】

山本 啓子(雲南市立病院)

# 第10回 シンポジウムの様子



# 第11回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成27年11月14日(土) 13:30

場所 古代鉄歌謡館

参加者 約250名

テーマ 「雲南圏域における地域医療」

～これからの世代が考える私たちにできること～

来賓 藤間 博之 様(島根県健康福祉部 部長)

基調講演

演題:「雲南圏域における医療と介護の連携について」

講師:濱本 直治 先生(はまもと内科クリニック院長)

パネルディスカッション

【パネリスト】

角田 耕紀 氏	飯南町立飯南病院 院長
永瀬 正樹 氏	雲南市立病院 内科医長
小林 志保 氏	町立奥出雲病院 看護師
歌田ちひろ 氏	訪問看護ステーションコミケア 所長
高尾 英次 氏	デイケアはまもと 理学療法士
恩田 禎子 氏	島根大学医学部医学科4年生

【コーディネーター】

矢田 明子 氏(NPO法人おっちラボ代表理事)

【アドバイザー】

鈴宮 寛子 氏(島根県雲南保健所 所長)

【全体講評】

大谷 順 氏(雲南市立病院 院長)

# 第12回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日 時 平成28年6月18日(土)13:30

場 所 奥出雲町立カルチャープラザ仁多

参加者 約200名

テーマ 「これからの世代が考える地域医療」

来 賓 吉川 敏彦 様(島根県健康福祉部 部長)

勝田 康則 様(奥出雲町長)

基調講演

演 題:「地域が育てるアンパンマン医師」

講 師:小西 達也 先生(ろっこう医療生活協同組合東雲診療所 所長)

パネルディスカッション

【パネリスト】

鈴木 賢二 氏	町立奥出雲病院 院長
内田 有紀 氏	町立奥出雲病院 外科医
川角 恵美 氏	奥出雲訪問看護ステーションにた看護係長
宇都宮賢一 氏	島根リハビリテーション学院専任教員
田中 多美 氏	飯南町訪問看護ステーション管理者
吉岡健太郎 氏	雲南市立病院リハビリテーション技術科係長

【コーディネーター】

大場 裕子 氏(自治労中央本部衛生医療評議会副議長)

【アドバイザー】

小西 達也 氏(基調講演講師)

# 第13回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成29年6月24日(土)13:30

場所 木次経済文化会館チェリヴァホール

参加者 約200名

テーマ 「みんなで考える雲南の地域医療」

来賓 吉川 敏彦 様(島根県健康福祉部 部長)

藤井 勤 様(雲南市副市長)

基調講演

演題:「これからの雲南地域の地域医療を考える」

講師:松田 晋哉 先生(産業医科大学 公衆衛生学教授)

パネルディスカッション

【パネリスト】

三上 隆浩 氏	飯南町立飯南病院 副院長
遠藤 健史 氏	雲南市立病院 内科医長
稲田やよい 氏	奥出雲町地域包括支援センター 調整監
小川 浩平 氏	雲南市健康福祉部 医療介護連携室長
毛利 直人 氏	島根大学医学部医学科 5年生

【コーディネーター】

大場 裕子 氏(自治労中央本部衛生医療評議会副議長)

【アドバイザー】

松田 晋哉 氏(基調講演講師)

櫻井 照久 氏(医療法人同人会 理事長)

# 第14回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 平成30年11月3日(土)13:30

場所 木次経済文化会館チェリヴァホール

参加者 約300名

テーマ 「地域医療と暮らしのゆくえ」

来賓 吉川 敏彦 様(島根県健康福祉部 部長)

勝田 康則 様(奥出雲町長)

小山 伸 様(雲南市健康福祉部 部長)

基調講演

演題:「最後まで“自分らしく”暮らすために

～医療に出来ること、あなたが備えること～」

講師:高山 義浩 先生(沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科)

パネルディスカッション

【パネリスト】

太田 龍一 氏 雲南市立病院 地域ケア科部長

石橋 奈美 氏 飯南町立飯南病院 地域医療部長

和久利 司 氏 奥出雲町健康福祉課医療介護保健グループ 主任主事

長谷川修明 氏 島根大学医学部医学科 5年生

【コーディネーター】

梶浦 靖二 氏(島根県雲南保健所 所長)

【アドバイザー】

高山 義浩 氏(基調講演講師)

# 第15回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 令和元年11月2日(土)13:30

場所 木次経済文化会館チェリヴァホール

参加者 約200名

テーマ 「未来を見据えた地域医療の人づくり

～求められる医療と教育とは～」

来賓 藤原 孝行 様(島根県副知事)

塚原 隆昭 様(飯南町副町長)

狩野 明芳 様(雲南市健康福祉部次長)

基調講演

演題:「みんなで考える多様な地域人材の育成と確保」

講師:藤原 義光 先生(元島根県教育長)

パネルディスカッション

【パネリスト】

医療関係者 西 英明 氏 雲南市立病院 院長

教育関係者 中村 訓子 氏 島根県立大東高等学校 校長

教育関係者 鈴木 哲 氏 島根リハビリテーション学院 教務部長

福祉関係者 宮本 裕司 氏 生活支援コーディネーター・コミュニティーナーズ

医 学 生 村上航太郎 氏 島根大学医学部5年生

高 校 生 須田 果歩さん、鳥谷 紗寧さん 三刀屋高校2年生

【コーディネーター】

梶浦 靖二 氏(島根県雲南保健所 所長)

【アドバイザー】

藤原 義光 氏(基調講演講師)

# 第16回 雲南の地域医療を考えるシンポジウム

日時 令和5年9月16日(土)13:30

場所 木次経済文化会館チェリヴァホール

参加者 約200名

テーマ 「少子高齢化と人口減少社会における  
持続可能な地域医療提供体制の確保に向けて」

来賓 糸原 保様(奥出雲町 町長)

塚原 隆昭様(飯南町 町長)

基調講演

演題:「アフターコロナの時代の自治体病院」

講師:伊関 友伸 先生(城西大学経営学部マネジメント総合学科 教授)

パネルディスカッション

【パネリスト】

行政関係者 安食 治外 氏 島根県健康福祉部 部長

行政関係者 石飛 厚志 氏 雲南市 市長

医療関係者 西 英明 氏 雲南市立病院 院長

医療関係者 鈴木 賢二 氏 町立奥出雲病院 院長

医療関係者 角田 耕紀 氏 飯南町立飯南病院 院長

【コーディネーター】

柳楽 真佐実 氏(島根県雲南保健所 所長)

【アドバイザー】

伊関 友伸 氏(基調講演講師)